

会議名称：令和4年8月度期古賀市社会教育委員の会議

日時：令和4年8月24日（水） 18時30分～19時40分

場所：リーパスプラザこが交流館 103洋室

主な議題：社会教育関係団体に対する補助金に対する説明

第3次生涯学習基本計画策定に係る市民アンケートについて

第52回九州ブロック大会 参加者について

第7回笑顔のつどい 日程について

傍聴者数：0名

出席者：井浦議長、角森副議長、國友委員、村山委員、丸井委員、橋爪委員、堺委員

（以上委員7名）

欠席者：秋山委員、光永委員

事務局：生涯学習推進課 樋口生涯学習課長、村上参事補佐、小嶋、平川、白川

青少年支援課 坂井生涯学習支援課長

配布資料：レジュメ、社会教育関係団体に対する補助金一覧（令和4年度分）、

生涯学習基本計画策定の流れ、市民アンケート（案）

会議内容：以下のとおり

井浦議長

学校は8月22日に前期後半がスタートして、子供たちの元気な声に戻ってきたのではないかなと思います。コロナも心配ですけれども、また元気に学んでくれたらなと思ってます。私、通勤する時に子供たちに見るけど、楽しそうに学校行ってると思うんですね。

夏休みに子供たちの姿を外で見かけないなと思うのが、ここ数年あります。

私たちの小さい頃は夏休み明けって言ったら、どれだけ日焼けしたか競争するような状況があったけど、今は日焼けは敵みたいな感じですね。熱中症対策、紫外線対策。こんな中で子供たちどうしてるのかなと思って。

夏休み過ごし方というと、児童センターとか児童館があるんですけど、そこは結構盛況だったようですので、子供たちは場所を考えて 楽しく夏休みを過ごしていたのではないかなと思います。今日は議題が盛りだくさんですので、しっかり審議しながらやっていきたいと思います。

事務局

協議事項としては、まず社会教育団体に対する補助金について行います。

坂井青少年育成課長

青少年育成課管轄の補助金について説明いたします。子ども育成活動補助金、少年の船事業補助金、青少年育成事業補助金です。

今年度、市の補助金ガイドラインに基づいて、3つの補助金の要綱を大きく見直し、新たに制定しております。様々な変更であるんですが、まず大きくは補助金の名称自体を変えています。

補助金の目的に沿って、活動の内容に変えています。以前は子ども会育成会補助金と、解の名前がそのまま補助金の名称となっていました。それを活動の名称に変えています。

それから補助の目的のところも、青少年の育成というのが主な目的となりますので、基本的には内容は同じなんですけど、子供たちの主体性や協調性を図るとともに、市世代の担い手を育成することを目的とするという形に変えております。

で、補助の対象となる事項についても、対象となる事業を謳っております。対象となる社会教育団体はどれも変わりはありません。予算額も前年と同様となっております。

令和3年の支出額ですが、子ども育成活動事業補助金については、コロナの関係もありまして、活動してないということで、補助額がゼロになっています。少年の船事業補助金については、昨年度は事前研修までやりましたが、コロナの関係で本研修にいけなかったもので、満額の交付ではありません。

青少年育成事業補助金につきましては、青少年育成市民会議の方で、少年少女の主張の作文事業を行っておりますので、満額の補助額となっております。

備考にそれぞれの事業の対象経費を書いております。今までの要綱や規則の中で対象経費はどれかというのは書かれてなかったもので、そこを新しい要綱では対応しております。

補助金が予算の範囲内で、補助対象経費の10分の10の交付となっております。

ただ、少年の事業の補助金につきましては、宿泊を伴う事業ではございますので、旅費については、補助対象経費の2分の1としています。旅費の補助はスタッフになってまして、参加する子供たちは旅費を払うようになっております。受益者負担を考えこういう取り扱いになってます。

実は少年の船事業補助金だけ他の補助金と違って、申請書と実績報告の様式の記載を細かく指定して、事業の内容や目標がわかるような様式を定めております。宿泊を伴う事業でございまして、事業内容がはっきり分かるよう、様式を定めています。

補助金の説明については以上です。

井浦議長

3つの事業について説明をしていただきました。何かご質問ありましたら、お聞かせください。

國友委員

子供育成活動について、学校単位で市子連に入っているのが2校だけと聞いていますが、市としてはどう支援する方針でしょうか。

坂井課長

昨年度から市子連ではコロナの影響が大きく、ジュニアリーダー育成事業についてはできない状況でした。その中で、市子連の活動をどうするかというのは内部では協議されております。市子連がなくなった訳ではありませんが、活動を止めている状態となっております。そのあたりは市子連加盟団体の主体性にお任せするしかないですが、青少年育成課としては、子ども会育成会の保険の窓口などもございますので、そういった支援を行っているところです。子ども会育成会全体の取り組みといったところでは、今のところは特段なく、相談がありましたら支援を行っております。

國友委員

学校単位での育成会は残ったりしてるんで、活動における保険はされているということですね。

井浦議長

確認ですけれども、校区の子ども会はあるけど市子連には入っていないということですか。

坂井課長

状況はまちまちです。全てが市子連に入っているわけではないです。

井浦議長

國友委員が2校くらいとおっしゃってましたね。

角森副議長

それぞれの活動に対して補助金を支払うとなっておりますが、支払先は市子連ですか。

坂井課長

見方としては、補助対象となる社会教育団体が行う補助の対象となる事項。

井浦議長

コロナの感染対策もしながら運営する難しさもあると思いますが、子どもたちの育成向けて、どの活動もやっていただきたいなと思います。PTCA も同じですが、親が忙しいからできないんじゃないかとですね、子供たちの育成ということを全面に出していただけると嬉しい。

少年の船も4泊5日で先週行かれたようです。今年は実施できたということですね。

角森副議長

校区ごとに子ども会育成会は残ってるということですね。

丸井委員

校区というより行政区単位ですね。

角森副議長

市子連も育てていかなければいけない。それぞれの地域で補助しちゃうと、市子連に入らなくなってしまうかなと思うんですが。

井浦議長

活動自体はジュニアリーダー育成とか球技大会とか、学校長も応援に行ったりしましたね。

角森副議長

球技大会があるから地域の子ども会も頑張ることもあったけど、単純に子供の育成活動だけ考えると。

國友委員

子どもも塾とか習い事が多くなったんで、球技大会も参加できる子どもが減っちゃって、男子のソフトボールがなくなり、女子のキックベースもなくなってしまって、ドッジボール大会になったりした。

事務局

趣旨を補足しますと、市子連に入っていない団体どうするかは市としては取り組むべき課題ではありますが、今、皆様に審理していただくのは社会教育関係団体の補助金ですので、団体の体を成しているところに対する補助・支援のあり方をどうするかということになります。

井浦議長

今改めてご説明いただきまして、団体としては確認できたということによろしいですか。3補助金の活動が活性化するよう、よろしく願いいたします。

井浦議長

続いて生涯学習に関するアンケートということになっております。

前回アンケートの案が出まして、各委員の方にデータが届いて、実際自分で問題を解き、回答しながら、内容を確認いただいたと思います。

その分を取りまとめていただいておりますので、議論をして、最終的な固めをできればと思っています。

事務局

生涯学習基本計画の作成の流れを説明いたします。

計画は過去から現在、第1次から現在の第2次計画、それから第3次計画と流れていきます。現在の第2次計画については、リーパスプラザこがという拠点を整備したところで、生涯学習の習慣付け・生涯学習の機会の創出を行っているところです。

第3次計画では、生涯学習人口をどう拡大していくか、いかに広げていくかが役割となっております。第3次計画もまた通過点でしかありません。第3次計画で生涯学習人口を更に拡大していき、行政や様々な活動団体からの働きかけにより、10年後、20年後、30年後という先の未来、能動的な市民の増加を見据えておく必要があると思います。ですので、第3次計画をこれから作るための基礎データ作りを、皆さんにご審議いただくこととなります。第3次計画の先も意識しながら考える必要もあるということを考えていただくようお願いいたします。

第2次計画の総括といたしましては、生涯学習拠点としてリーパスプラザこがの建築が終わりました。利用件数は順調に推移していて、生涯学習への親しみが増えてきていると考えられます。これは、予約システムのデータがございますので、言い切ることがあります。

では、リーパスプラザの認知度はどうかというと、今持ち合わせている行政のデータでは判別できません。ですので、市民やアンケートで問う内容になります。

それから、市民の生涯学習に対する取り組みはどうか、特にどの年齢階層が成長であるというような詳細、横ばいなのか上向きなのか下向きなのか、どの年代層が活発なのかというのも、今、手持ちの資料では判別ができません。なので、市民アンケートで確認していきます。また、生涯学習に取り組んでいない、親しんでいない市民の割合は何パーセントぐらいで、多いのか少ないのかというのも、今の現在の手持ちの行政の資料ではわかりませんので、市民アンケートによるというような形になります。

こうした、第2次計画を総括するために、どういうデータがあって、どういうデータが足りないのかというのも、皆様のご審議の中から浮かび上がるかと思います。事務局提案は、現計画の総括を念頭に置きながら作成したものになります。

次に古賀市の現状と課題。

古賀市の生涯学習環境は、リーパスプラザこがの建築により、一定の状況が整いました。利用者は漸増傾向です。しかし、生涯学習にまだ取り組んでいない市民も多いのではないかと。特に、若年世代と勤労世代の利用が進んでおらず、いかに働きかけるかが課題になります。こちらに関してはリーパスカレッジの受講状況などから、若年世代、勤労世代となる20代

から 50 代ぐらいまでの利用が進んでいないということは推測はできますが、推測だけでは弱い。なので、現状と課題に関しましても、市民アンケートで補強していく必要があります。

第 3 次計画を作っていくというところに目を向けますと、生涯学習に取り組む市民が増えリーパスプラザを拠点にして、さかんに能動的な活動が行われているようになってほしい・なるように、施策を組み立てていきたいという計画を作りたいと思います。

また、第 3 次計画内で実現する市民ホール化では、コンサートや寄席が頻繁に行われ、市内外多くの市民が文化で刺激を得るようになり、地域公民館などで地元住民主催による市民講座、これはリーパスカレッジの出前講座・アウトリーチが開催され、市民が能動的に受講して見識を深めていく、これも容易になってほしい。

市民サークルが活発に活動し、健全な新陳代謝が行われる。たとえば、今の活動している団体に、皆さんが 10 歳年を重ねたら、今の活動団体で何団体残ることができるかを考えた時に、健全な新陳代謝というところは、必ず意識しなければならないことです。行政としてもこの会議としても、こういった健全な新陳代謝ができるように、例えば色々なアイデアや講演会、シンポジウム、それから笑顔のつどいで刺激を与える、情報を与えていくということが必要でしょう。

色々な団体の意見交換や交流というのも大切になってくると思います。そういったところが、第 3 次計画が目指す将来像となります。

例えば、これからの話になりますが、第 3 次計画を作るにあたってコンセプトも皆さんの議論の中から出てきてほしいなと思います。例えば「人生 100 年時代を豊かに過ごすため、あらゆる世代の人が生涯学習を楽しむ街となる」、例えば、こういう風なコンセプトを作ると、第 3 期計画というものは、どういった事柄が書き込まなければならないのか。そのためにどういったデータがあったらいいかと、そういったところを意識しながら、これからの市民アンケートの書きぶり・内容を過不足がないかどうかとご確認いただけたらなと考えているところでございます。

國友委員

市民ホール化により有料のコンサート等が行われることで、多くの市民が文化芸術に触れるであろうという将来像ですが、おそらく市外からも多くの方々が来られる。より市民が触発されて、同じように参加したり、出向くようになるような作戦が必要なのかな。現状の姿で見えるこれからの 10 年っていうのと、駅裏の再開発でまたガラッと様子が変わるかと思いますが、その辺がちょっと 10 年間の計画っていうのが、途中でまた見直しも必要になるんじゃないかならうか。

事務局

確定している部分と未確定になっている部分、10 年間の予測というのは、この流れの速い時代に、相当な困難を伴うことはご存知の通りだと思います。例えば、10 年前にこれほ

どスマートフォンが流行るとは思いもしなかった。以前とは情報の得方というのも大きく差が開いてしまった。まさか 10 年前の時点でギガスクール放送が実現するなんて思いもしなかった。

そういう風に未確定な部分というものは、考え始めるときりがない部分がございます。あくまでも現時点で、想像できる範囲で考えていくということ。

もう一つ、20 年後の姿とありますけれども、これから先、古賀市民にはどうあってほしいか、どういうふうな古賀市民を目指していくか、というところから逆算して考えていくと、どういう取り組みが必要になっていくか。町の姿が多少変わろうとも、こういう風な市民像というものを目指していきたいというコンセプトを作ることで、ある程度の街の開発や、生涯学習の広がりというところが変化しても変わらない、ぶれない軸というものが作ることができるという風に思われます。ですので、例えば市民ホールがあってもなくても、触発された市民を作っていきたいとの考え方で進められるとよろしいのではないかと思います。

井浦議長

市の方でも長期と短期の計画、そしてアクションプランを、段階的に常に見直しながら、最終的なゴールを目指していくというような形が取られています。

そういう策定にあたっての、基礎データを取るためのアンケートですので、それに該当する項目が入っているのかどうか、というのをこれで審議していきたいと思しますので、1 つずつ抑えていきます。

事務局

資料として、多摩市さんの例を紹介します。イメージとして参考にしてください。多摩市生涯学生推進計画の 53 ページから、市民アンケートの結果が掲載されており、どういったもの聞いたか、結果があります。そして、この計画に落とし込まれている。分析の方もされておりまして、非常に分かりやすくなっております。我々も最終的には市民アンケートをこういう風にまとめて、計画に織り込んでいきます。

また、答えていただく市民の負担も考えて、必要なことは聞く、計画に組み込めないことは削除して、最低限の質問数にとどめたいと思います。

井浦議長

一つずつ確認をしていきましょう。

まず、年齢を教えてくださいというところのご意見はなかったということですが、よろしいですか。

次が性別を教えてくださいの項目。答えたくないという項目もありますが、よろしいですか。

続いてお住まいの校区を教えてください。地域によりニーズの差があるのかを調査した

いということでの趣旨があることから、もっと細分化しなくて良いのかと質問があります。事務局側はコミュニティー単位の実態を把握したいと回答が来ておりました。よろしいでしょうか。

次の項目は職業ということになっています。ここには団体職員があつていいのではないかとということで、新しく加わっている。

事務局

団体職員は会社員でも公務員でもない方で、NPO や公益財団法人の職員などが該当すること、追加いたしました。

井浦議長

次が世帯構成。友人・親族の扱いをどうするかというところで、パートナーや直系親族以外との同居は多くないと考え、その他を選択してもらおうとあります。よろしいでしょうか。

続いて興味があることを教えてください、複数選択となっています。興味があるものや大切にしているものを調査し、リーパスカレッジ・個別事業に役立てる、関連付けるということです。ここには文化芸術、子育て支援や介護の追加、趣味・余暇の違いという意見が上がっており、文化芸術、介護、福祉、ボランティアも追加された。

事務局

育児の他に子育て支援を追加した方がいいとご意見をいただきまして、包括した項目としてボランティアという形で入れさせていただきました。

趣味と余暇の違いということで、趣味は仕事以外で楽しんでいること、余暇は自由に使える時間ということで、若干ニュアンスが異なるかと思っております。統一した方がいいかご意見いただきたいと思えます。

角森副議長

余暇より余暇活動とした方がいいかな。

事務局

そうですね。ただそうすると、他の質問、スポーツなどに該当してきますので、削除したいと思えます。

丸井委員

興味があることと趣味は違うんですか。趣味 SNS です、興味も SNS です、とかありそう。

事務局

細分化していくと、例えばスポーツはどのスポーツという話になりますので。ここはあくまでも大枠でとらえるということで。

角森副議長

スポーツが好きな人は、興味スポーツで趣味とスポーツに丸がつくということですね。

井浦議長

複数選択ですねスポーツと文化芸術が趣味ですということもありますね。

丸井委員

興味あることイコール趣味になるかと。

事務局

14番の趣味も削除いたします。

村山委員

6番の興味があることについては、幅がすごく広いので、これから先の狙いがあるかと思えます。そこから絞って内容を入れるようにしないと、書いてあることの内容のこのレベルが違っていると感じます。

色々入ってるけど、意図が見えないと回答者も付けづらい。私も回答したけれど、考え始めるとおかしな感じになってくるので、全体からこの部分を考えて方がいいんじゃないかなと思います。

井浦議長

興味のあるものを大切にしているものを調査し、リーパスカレッジや事業につなげていく。ここからの引っ張り出しですよ。

事務局

この質問については、主に生涯学習活動を行っていない人に働きかける際の導線として使いたいと思入れました。興味のあるものに絡めて生涯学習に持ってもらえないかなということで、あえて幅広くしています。これだけ見ると非常に脈絡のないものが多いです。例えば旅行とかいきなり出てきて、なんだって思われるかもしれないですけど、その旅行に役立つことで、生涯学習に関連付けたものを事業に取り入れられないかと。逆にこういうものに興味持ってる人は生涯学習をしているかの確認なども。そのため、あえてバラバラにしてるところはあります。

井浦議長

これって中学生も入りますか。

事務局

18歳以上になります。なので、高校生は入ってくる可能性があります。

井浦議長

大枠的な項目がある中に、個別な具体的なものが入って、その辺がちょっと目を引くのが気になってるな、というところですね。それをどう整理していくのか。これは一旦保留します。

続きます、あなたが大切にしていることを教えてください。ここは7、8が消えてるってことですが、上との関係もありますか。

事務局

7番は全て自分のこと、他の環境やペットなどの外的ではなく、完全に自分の周りのままだけにしています。

まずお聞きしたいのは、この設問がいると思うかどうかになります。6番との差別化は非常に分かりにくいと思います。

村山委員

大切にしていること、家族や友人。地域っていうのは人ですか。これでひとかたまり、仕事や学校でひとかたまり。それから余暇といった感じで広げていかれたのかと。これも難しいですね。アンケートにも書いたんですけど、大切にしているっていうので、人だったら、家族と友人と地域、地域の人。

自分だったらどうかと考えた時に1人暮らしたら、どうかと。地域の人はどうとか、そうその辺でこうピシャッと来るのがなかったりするんですよ。人を大切にしていると自分としては思っている、仕事優先だろうか、そうでもないかと。非常に曖昧なところもありますよね。

意図していることをもう少し絞ると、何のためにこれ尋ねたかもあったほうがいい。

井浦議長

6番との関係も含めて削除というのもありえるということですよ。回答の必要性があるのかどうか。

この件はご検討いただければ、非常に回答しにくい問題ではないか、ということでしょうか。

国友委員

順番として、あなたが生きていく上で大切に思っているのはなんですか、が先にあって、次に人や仕事や趣味が重要かと持っていったら。

それから 6 番 7 番は同じ項目はもういらないと思う。興味はこんな感じで色々あるんですよ、みたいな感じでいい。

井浦議長

設問の順番を変えて、内容も精査する。

角森副議長

地域は人なのか、実際に住んでいる土地なのか。人、仕事、趣味と大切なものを選ぶと。

事務局。

今の話をまとめてみますと、まず大切にしていることを教えてくださいというのを先にしたとします。その場合、1 から 3 が大体人間関係、4 番からが職場学校、それから次に趣味を付け加え、余暇休養と続く。

その次の設問として、あなたはこの中で何に興味がありますか。というようなところで、具体的な興味があることを教えてください。ここであなたが大切にしていることを教えてくださいと重複しないように、具体的には 3 番地域、8 番家族関係、10 番友人関係、11 番仕事、この 4 つを削除する。

角森副議長

地域を人の中に入れるんだったら、別枠になると思います。

事務局

私どものとしては、地域をものとして捉えてるのか、人として捉えているのかについては興味があります。ですのでこの設問で地域というところにどれくらいの割合で丸がつくのかは聞いてみたい。

井浦議長

地域を人なのかものなのか場所なのかって捉えた際に 6 番も回答して、それがクリアできるのか。地域の人を大切にしていますと思った人は、次の設問で答える時には。

丸井委員

福祉やボランティアとかですね。福祉は人です。もので考えたときは文化芸術？

角森副議長

環境かな。

井浦議長

そこが繋がっていけば、6番7番の入れ替えで意図された回答が出てくるかなと。

事務局

今のご意見で一度作ってみまして、早いうちに改めてご意見いただきたいと思います。

井浦議長

じゃあ次ですね。8番です普通、どういったところから情報収集していますか。

その前に、あなたをご存知のことということで統一したいという出ています。情報発信の方向性を探るといことで、その他を入れて8項目。

9番がリーパスプラザこが、古賀市生涯学習センターをご存知ですかというもので、内容が少し変わってきてます、利用したことがある、利用したことがないがどういう施設か知っている 名前だけは知ってる、知らない。知名度を確認するということですね。

事務局

確認するときの一般的な聞き方に統一をしています。例えば9番と12番ですね。

井浦議長

10番、11番あたりで、利用者のいいところ、悪いところを利用したことのない人がなぜ利用しないかの調査を行うということで、この項目が出てきています。

使いやすいという言葉が、親しみがあるという言葉に変わってますね。あとバリアフリーという項目が出てきて、目的に応じた部屋、防音室は消えていますね。

悪いところは、これに対比するような感じですね。

事務局

バリアフリー・ユニバーサルデザインに対応していれば質問を入れてみたらどうかというご意見いただきましたので、今回入れさせていただきます、リーパスプラザは建物内に点字ブロックがあったり、それから公民館は古い建物なので階段になっておりますが、交流館の方は基本的に段差をなくしておりますので、バリアフリー対応と認識しております。

井浦議長

この3つの項目で、リーパスプラザこがのことを知る。いいわるいも含めてここで尋ね

る。

事務局

質問でも、実際に使っていない人からもイメージを聞く必要があるのかとありました。これは使ったことはないけれどあんまりいい噂聞かないとか、実際に使った友人から話を聞いたといったイメージとかがあるかどうか見たい、悪い噂だったら改めたり、広報の戦略に役立つかと思っております。

これについても、利用者だけでいいと思うかなど議論いただきたいです。

井浦議長

質問のところにイメージを入れて、例えば利用したことはないがどういう施設か知っている人は、予約が取りにくいって聞いたという回答が出てくる、ということですね。

事務局

名前だけ知ってるけど、あんまりいい噂聞かないとか、逆に友達が行ってるし利用してみようとか、予約取れるっぽいとか、そういう詳しくは知らないけど、って人まで意見集めてみたいと思います。

角森副議長

その10番11番には利用したことのない人もお答えくださいって書いておいては。全員回答だけど、私は使ったことないし分からないと飛ばす人もいるかも。

井浦議長

大体全問解いても5分ぐらいですね、これ。補足説明の分があっても、そんなに時間はプラスにはならないかな。

角森副議長

推察できる人は、私は使っていないけどイメージ聞きたいのかと分かるけれど。

事務局

では下の段に利用していない方もお答えくださいと一文付け加えます。

村山委員

リーパスプラザこが古賀市生涯学習センターというのは、この交流館とホールも入れてですか。

事務局

全てです。公民館・交流館・図書館・歴史資料館をまとめてリーパスプラザこがです。

井浦議長

敷地内の、体育館以外の全てということですね。

村山委員

ここに上がっているのはサークル活動等をしていて、この施設を活用する人に向けて書いてあるような感じですけど、お客さんとして来る人もいないじゃないですか。そうすると、その建物のことばかり書いてある。建物は新しくなったし、色々工夫もされていて、いいねということはあるけれど。

実際にその多くの人は、計画を立てて活動をしてるのではなく、お客さんで来る人の方がかなり多いんじゃないかと思うんですね。

で、そうなると思うところがないとか、もう少し具体化しないと書きにくい。

リーパスプラザはホールもあるし、交流館の研修もあるし、歴史資料館もあるし、図書館があるということになったら、もう少しその辺を具体化しとかないと。

井浦議長

知ってる人前提の考え方ですね。

角森副議長

図書館も入るのなら、例えば図書館なら利用料についてはいらないですよね。全ての生涯学習センターを聞くのであれば、全て調べていかないと。

図書館は図書館計画があるんじゃないかね。

村山委員

皆さんにお尋ねするときに、どこの部分で答えたらいいのとかというのが難しい。

角森副議長

知ってる人は答えやすいですけど。私は図書館まで含まれると知らなかったから答えにくい。

事務局

ありがとうございます。4館に分ける方向で作りたと思います。

図書館や歴史資料館にも審議会がありますが、生涯学習基本計画はそれらの上位にあたりますので、館運営についても聞いてみたいと思います。

ですので、リーパスプラザこが中央公民館をご存知ですか、リーパスプラザこが交流館をご存知ですか、リーパスプラザこが図書館をご存知ですか、歴史市資料館をご存知ですかというような形にして、9間の利用したことがある、どういうものか知っている、名前だけ知っている、知らないという聞き方はそのまま、それから良いイメージ悪い、悪いイメージに関しては、それぞれの館に対応するような形で調整したいと思います。

井浦議長

リーパスカレッジは中央公民館になるんですか。

事務局

リーパスカレッジは個別の事業になります。

角森副議長

図書館なら図書館で個別の事業はしてるから。

事務局

はい。そこは図書館の計画に委ねることになります。

井浦議長

リーパスカレッジだけは単独で聞くことになる。

事務局

リーパスカレッジはどの計画にも紐づいてないです。

例えばスポーツであれば、スポーツ振興計画があります。しかし公民館係と社会教育振興係が行う事業につきましては、どこにも紐づいた計画はございませんので、ここで聞きます。

井浦議長

反対に図書館の事業や資料館の事業は個別の計画があるから聞かせんと、そういうことですね。では図書館を利用した人が、図書館の事業は聞かないのかと思うのでは。

事務局

では自由記述欄を設けます。

リーパスプラザ 4 館についてご意見があればお書きくださいと一問入れて、それから別だてでリーパスカレッジについて尋ねます。

丸井委員

自由記述は何のために設けますか。

事務局

リーパスプラザ4館の総合的なことをお聞きする場として。

角森副議長

リーパスカレッジだけ個別に聞く理由を入れておけば、そのままでもいいかと思う。

事務局

聞く理由を入れるつもりはあまりない。聞く理由というものは、全てに対して存在してる。

角森副議長

リーパスカレッジだけをここで取り上げる理由。

井浦議長

図書館を利用してましたことがあります、図書館の事業は何で聞かないのっていうことですね。

角森副議長

あえて図書館は聞かずにリーパスプラザだけ聞いているのはこういう理由からですっていうのが必要なと。自由記述は書いてもらうとまとめるのが大変かなと。4館聞いたら次はそれぞれの課に返すんですよね。

事務局

その通りです。

村山委員

これは8番から11番は建物のこと、それから利用のしやすさとかについて書いてありますよね。で、12番から急に内容に関わるようになってるので、全然質が違うなと思った。それで、例えば図書館なら図書館について書いた後、ちょっと一言を申し上げたいというようなことがあると思います。

そこで、一言書きたい人がちょっと書くっていう欄があったら、そこでちょっと納得されるというか、ほっとするとか。で、気持ちを変えて、次の課題に臨むということで。

井浦議長

項目が増えてきますけれども、個別施設の調査が入ってくるということですね。で、その後でリーパスカレッジが入ります。リーパスカレッジが名前だけは知っているという項目が増えているのと、イメージに若干修正が入っている。これはどうでしょう。

ここもさっきと同じように、知らないとした人は、特になしかわからないという回答になっていきますよね。

角森副議長

近くなのに知らないとかいう人がいたらどうなるんでしょう。

事務局

そういった回答もあるかと思います。近くの方で興味を持たれなかったことで、新たな課題として浮き彫りになるかと。

樋口課長

リーパスプラザこがで距離については聞くので、リパカレの方で改めて聞く必要はないかと思います。

丸井委員

リーパスカレッジは別の事業として聞く必要があるのでは。

事務局

リーパスカレッジにつきましては、全市展開していますので、必ずしもリーパスプラザだけで開催している訳ではないです。そこも含めて、家から近い遠いっていうのをできるだけ回答してほしいなと思います。

ここでは、悪い方のイメージ、家から遠いっていうのをできるだけ答えていただきたいと思っております。このリーパスカレッジは今後生涯学習基本計画を展開していくうえで、核心の事業になってきます。それで、リーパスカレッジをお住まいの方々の身近に持っていくかというのが最大の課題になり、これが成功しないと、生涯学習を能動的に市民に享受してもらえないことになってしまいます。遠いということが理由に上がるのであれば、では近くまで行きましょうという、そういう施策展開を持っていくことができるということになりますので。

角森副議長

さっき出前講座って話にありましたけど、出前講座とリーパスカレッジは別もの？

事務局

同じものです。出前講座は先程資料の中でお話ししましたが、アンケートの中には盛り込まれていません。

井浦議長

家から近い遠い、一回で受講しやすい、安価、そういうところが対立した項目ですかね。

角森副議長

リーパスカレッジは今のところここでやってるのを、公民館、地域に向かっていくのか。

事務局

リーパスカレッジは今期で 5 期目になるんですけども、地域からの要請というものも受けられるようになってきています。ですので、それをどんどん広げていきたいという風には思っています。

村山委員

リーパスプラザこがのところで書いてある、良いところと良いイメージってあるでしょ。良いところというのは、実際に体験してからはっきりと安定できるところで、自分ではしたことないけど人から聞いたりして、こんな感じっていうのがイメージなんですね。

井浦議長

次からの項目が少しカットされています。

事務局

補足させていただきます。

クロスパルこがはスポーツ振興計画の方に詳しく盛り込まれることになります。スポーツの方は別に市民アンケートを取るようになりますので、今回はこちらからは外します。

一緒につながりひろばについても、第 2 次計画当初は生涯学習に組み込まれる予定ですが、まちづくり推進課で管轄することになりましたので、今回は割愛させていただきたいと思えます。

井浦議長

続いて、地域活動をしたことがありますかの項目。

気になったのは、行政区とか、自治会とか、そういう言葉の意味が皆さんもきちんと分かっているのかということ。特に若年層になればなるほど難しいのかな、というのがあるかと思いました。

事務局

ここは注釈付け始めるときりがないところになります。

議長が心配される方というのは、転入されてきた方かと思います。自治会と町内会の区別、町内会と隣組の区別が分からない可能性はあるかなと思います。ただ、自治会・行政区という言い方は日本のスタンダードですので、それほど違和感というものはないと思います。

井浦議長

複数選択可ですね。いっぱい丸付けられるかなとも思って。

國友委員

活動したことがあれば、呼び名も知っているだろうし、呼び名も知らないイコール活動したことないんだと思います。

丸井委員

地域の公民館ってどういった活動ですか。夏祭りは自治会ですよ。

事務局

分館としてもされてたりはあります。

それから、地域の公民館と書いておりましたが、正式名称は公民館分館になるんですけど、その言い方が難しいかなってことで、地域の公民館と記載しています。

内容としては例えば公民館を使ったサークル活動とか、そろばん塾だとか、そういったことであれば地域の公民館活動といえると思います。

丸井委員

それは地域活動になるってことですか。そろばんとかサークル活動でも。

事務局

地域の人が、不特定多数の人に対する働きかけとして地域に行くものを地域活動とか地域の公民館活動ととらえている。

角森副議長

自分が主催者としてしたことと、参加したこととの区別があるんじゃないかな。

井浦議長

地域の公民館での講座で良くないですか。主催でもあり、参加でもあり。受講を外せば。

それとさっき言われたサークル活動を追加で良さそうですか。

じゃあ、17番に行きます。新しく生涯学習の概要を説明いただいた上で活動を行っていますか、という項目になってます。

角森副議長

この概要のところ、アンケートの頭にも乗った方がわかりやすいんじゃないかな。

事務局

そういたします。

また、生涯学習を行っているか分からないという項目を今回加えてみました。生涯学習はどんなものか難しく、わからないがあった方がいいのかなって思ったんですけど、どうでしょうか。

井浦議長

概要説明しているのでやっていますか、やってませんか、だけでいいと思います。

18の方に移ります。行う理由はなんですか、こういった活動を行っていますか。以下の質問と関連づけるというところで、この辺はよく聞かれる聞き方ですね。

事務局

この辺は一般的な聞き方になっています。で、なおかつ、この内容に関しましては、他市や政府でも一般的に聞く生涯学習の例に似せて作っています。

で、そうすることによって、例えば地域特性、古賀としての地域特性がある、そういう比較検討ができるという風に考えますので、ここではあえてそのオリジナリティは出さないで作っております。

角森副議長

どこでもそうなるんでしょうけど、この仲間との交流っていうと、生涯学習活動が限定されるかなと思います。私は、人との交流じゃないかなと。

でも、よそはそんな聞き方しないんだったらあれだけど、あくまでも生涯学習っていうのは、そういうものだけじゃないって。

事務局

一般的な聞き方として、友達作りとか、仲間とみたいな言い方が多いは多いです。友達作りの一環として、最初は参加しました、といった風にですね。

角森副議長

友達にならなくても、人と交流することに意味はある、交流できる。別だてする必要まではないけれど。

村山委員

選ぶときにちょっと迷ったのが、19番の4 ダンス・舞踏・体操というところで、ダンスとか舞踏の中に健康体操とかも入るのかどうか。健康体操は運動の方に入るのかなとか、ちょっと悩んだんですよ。

体操で4番に丸をつける人は、ダンスとか、舞踏とか違うと思う。私もそうですけど、つけにくいです。

事務局

体操は取る方向で変更させてください。今ご指摘のように、ここで言うところの体操は、運動スポーツでのくくりで考えてきます。

井浦議長

20の1が、回数のところ、若干文言の修正が入っています。

ほぼ毎日、週2回以上、週に1回程度、月に1回以上、年に数回。良さそうですか。

はい22はどこで活動していますか。市内市外を含めて場所が出てきています。

事務局

ゆい、千鳥苑のご提案いただきましたけれども、例えば他にも児童館ですとか、教育集会所とかそういったものもあるので、市内のその他の公共施設でくくりました。

角森副議長

クロスパルこがは名称を出しているが。

事務局

クロスパルこがは指定管理、半官半民になりますので、別だてで扱いたい。

井浦議長

続いて23番。

丸井委員

6番7番の「見て」はいらないですね。

事務局

そうですね、ありがとうございます。

角森副議長

文化協会やスポーツ協会も団体なら、下の団体と分けるか。

井浦議長

少年野球なんかは下の団体の方に入ると。

事務局

どちらの情報が先に届いたかを知りたいです。各種を前にいれましょう。

角森副議長

文化協会とスポーツ協会は、社会教育の委員にもなってるから、市の補助団体なのか。

事務局

補助団体としての面もありますが、これらは法人格を持っております。

井浦議長

例えばこの3番に続けて、4番にその他団体のチラシと変えたなら、前段との違いが分かりやすいかと。

では、24、25と実感するか、これはいいですね。

それから現在の活動をどう思いますか。

事務局

8番の仲間については、活動で友人関係が構築できているかどうかというのを聞きたいわけですね。設問18とは異なります。次の設問の仲間が少ないとセットです。

副議長

けれど、一人で行っても生涯学習活動ではある。仲間ではないけれど、人との交流があれば。

事務局

そうすると26が仲間ではなく人が少ないとなって意味が通らないことになります。

井浦議長

ちょっともう時間が厳しいです。今回が議論は最後で、次回が取りまとめられた分を最終集約して、もう1回目を通すってことになるんですね。だから、もしよければ、今週いっぱいぐらいもう1回ご意見をいただくってことは可能ですか。

今日もう1度これ持ち帰っていただいて、言葉の流れまで見て、この項目がふさわしいのかどうかみたいなのももう1度それぞれ見ていただいて、変更あり・なしを金曜日までに事務局の方に回答していただいて、それをもって、9月の会議で調整を思いますけど、よろしいですか。

事務局

もうちょっと時間を取りたいと思います。金曜日だとあと2日しかございませんので、今月いっぱいです8月の31日まででお願いします。

井浦議長

じゃあ、8月31日までもう1度見てみてください。

事務局

それまでに、26番まででいただいた意見を修正したデータを送りなおしますので、それで26番までの流れを見ていただいて、残り35番までもご確認いただけたら。

井浦議長

アンケートの件はこれで1つ区切りしたいと思います。項目があと2つあってですね、九州ブロック大会の分で、開催要項が入っておりますけども、10月、参加が可能かどうかいうのを確認します。

6、7日の大分県で開催が予定されております。お仕事等の都合も含めていかがでしょうか。

先生方はちょっと難しいと思いますが、もし参加が難しかったら、これオンラインが可能なんですかね。

事務局

オンラインは、ライブと動画配信が予定されているそうです。行きたいが日程が厳しいっていうのがあれば、後から視聴できる動画配信も視野に入れていただけたら。

井浦議長

オンラインの場合は、2日間のうちの、例えば、分科会だけとか、そういうのは。

事務局

分科会についてはライブ配信ではありませんので、別日に改めて動画が配信されます。全大会も見れないことはないですが、どちらかと言えば、価値があるのは分科会の方です。

井浦議長

参加可能な方はいらっしゃいませんか。でしたら、録画配信をみるということ。

事務局

事務局の方で一名は必ず行きます。九州ブロックの様子を見ることが出来る機会ですので、会の後でも結構ですので、同行される方がいれば改めて事務局までお申し出ください。

井浦議長

もう1点が笑顔のつどいになります。来年度の開催時期というのだけは決めておいた方がいいのかな、というところで。

事務局

もし今年と同じ6月ぐらいだったら、今ぐらいに決定しておかないと、準備が間に合わないかと思うので、何月ぐらいにしたいということだけでも、決めていけたらと思います。

前回の会議でも出ましたが、テーマにもよるところではあります。6月の良さは年度初めでありますので、その年度に活動される方たちにとっては、内容によっては非常に参考になるという良さがあります。他の月ということであれば、繁忙でない月を選ぶことで、参加を多く促したり、そういった良さってものを考えることができると思います。

今月、8月の段階で、次回何月というのを決めなきゃいけないということではございません。本日の会議はどうしても市民アンケートが中心になってしまいました。なので、次回、市民アンケートを確認していただいた後に、笑顔のつどいに対して、テーマの方向性と実施時期を決めるということでもいいかと思います。

井浦議長

でしたら、次回これはさせていただくということで、今までの開催日等をイメージされながら、テーマも含めて、皆さまでもご検討いただければと思います。

長くなりましたけど、協議事項は以上です。

事務局

委員の皆様から何か情報提供はありますでしょうか。

では、事務局から1つお知らせがあります。

リーパスプラザこが整備に伴う基本計画策定及び事業調査業務委託のプロポーサルを行

いましたのでご報告いたします。

本業務委託についてはリーパスプラザこがの市民サービスの向上のため、既存施設を生かしたより一層の賑わい創出を目的として、施設の特性について調査分析整理を行って、リーパスプラザこがを生涯学習の拠点として市内市外により広く利用していただくことを目的とした委託になります。この業務委託の業者選定について、企画と提案力というのは必須になりますので、今回一般的な価格競争の入札ではなく、プロポーサル方式を採用させていただいて、公募したところ、4社から企画提案書の提出がありまして、今月の22日月曜日に実際に審査会でヒアリング方を実施させていただいております。

その結果、受託公募者として、1社の選定をしている状況です。今後もこのスケジュールについてなんですけれども、受託候補者と契約の締結を行いまして、今年度中に基本計画の策定を考えております。

また、JR古賀駅東口の再開発がありますので、そちらの動向も見ながらこちらの計画も整備していきたいと考えております。

最後に今後この計画策定にあたって、社会教育委員の皆様にも、様々なご意見を今後伺いしたいと思っておりますので、ご協力の方よろしくお願いいたします。

井浦議長

審査会が終わって、企画計画が進んでいくということです。またお話がありましたら、検討を聞かせていただければと思います。

事務局

調査の期間を令和5年の10月31日までの工期としておりますので、それまでに、これからリーパスプラザをどういう風に作っていくべきかという基本計画と、最適な運営者というのは誰か、公設公営でいくものなのか、公設民営でいくものなのか、という最終的な判断をしていくつもりです。

それに伴って、令和5年の10月31日までをどういう風な使い方をしていくか、というスケジュールを、次回の9月にはお示しすることができると思います。

その中で、社会教育委員の皆さんとの対話というのも必ず出てくると思いますので、その際はまた忌憚ない意見が交換できるように私の方も準備を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

事務局

では、最後にあの次に次回の日程を設定したいと思います。

～調整により9月20日（火）に決定～

事務局

ありがとうございましたでは、最後終わりの言葉をお願いいたします。

角森副議長

じゃあ、皆さんお疲れ様でした。本当に久しぶりに頭を使いました。では皆さん、お気をつけてお帰りください。